

# 万祝をみる

今回は、染物としての価値も高い「万祝」(大漁祝いの祝まいわいい着)の芸術的な美しさを鑑賞しました。また、「万祝」を生み出す背景となった房総の漁業の発展の歴史との関わり、それを支えた海に生きる人々の生活様式について理解を深めました。

日 時 平成22年8月6日(金)

場 所 館山市立博物館分館  
関澤明清顕彰碑、順天丸殉難碑  
大福寺

日 程 8:45 JR千葉駅東口NTT東日本前集合・出発  
バス移動  
11:00 - 13:30 館山市立博物館分館  
鑑賞、見学 昼食  
徒歩移動  
13:35 - 13:50 関澤明清顕彰碑、順天丸殉難碑  
見学  
バス移動  
14:00 - 14:45 大福寺(崖の観音)  
散策  
バス移動  
16:50 JR千葉駅東口 解散

## 【見学内容】

- 1 館山市立博物館分館
  - ・万祝を鑑賞し、図案や彩色技術の芸術性について学びました。
  - ・万祝の記録映画を視聴し、成立の背景や製作の過程について理解を深めました。
  - ・万祝の成立の背景ともなった、特徴的な漁法や人々の生活様式など、房総漁業の発展の歴史について学びました。

## 2 関澤明清、順天丸殉難碑

- ・近代漁業の先駆者・関澤明清の功績を称えた碑と、遠洋漁業で活躍したものの、朝鮮海域で遭難した漁船・順天丸の殉難者を悼み建てられた碑です。近代漁業の発展が、多くの人々の努力や犠牲の上に成り立っていたことを学びました。

## 3 大福寺（崖の観音）

- ・安房国札所第三番霊場であり、海上安全と豊漁を祈願して建立されたと言われていいます。館山湾を望みながら、海に生きる人々の信仰や生活様式をしのびました。

集合場所は千葉駅前、今日は夏休みの最中ということもあって小・中学生の参加も多く、にぎやかです。朝から大変よい天気の中、バスは博物館のある館山市を目指して出発しました。

### 館山市

房総半島南部に位置し、海岸線が31kmに及び、海に面したまち。海水浴、ダイビングをはじめ、マリンスポーツが楽しめます。温暖な気候を利用して、花の栽培が盛んです。保養地としても知られています。人口は約50,000人。

## 万祝について

「まいわい」（間祝い、万祝い）とは「意外な大漁があったとき、漁業主が漁師・関係者・知人などを招いて祝宴を開くこと」、また、「『間祝衣着』の略」と辞書（「大辞和泉」）に記載されています。表記もいろいろあったようです。「間祝衣着」とは、間祝いのとき漁業主（船主や網主）がそのもとで働く漁師（船子や網子）などに贈る祝着のことで、今回ご覧いただいた「万祝」は、このはんてんの形をした祝衣着です。



大漁のときに祝着を着るならわしは、現存する古文書によると、江戸時代（文化・文政時代；1804～1830年）には定着していたようです。そして、明治から大正期をピークに昭和30年代頃まで、静岡県から青森県にかけての太平洋沿岸で行われてきました。一説には、発祥は房総地方とも言われます。

この祝着、一般的には「万祝」と呼ばれますが、三陸地方では「長バンテン」、「カンバン」とも言います。

なにが描かれているのでしょうか



[背型]

- ・屋号や動植物が描かれた。
- ・屋号で、船主や網主、漁をするときのグループがわかったという。

[裾模様]

- ・もりを投げて捕まえる勇壮な漁の様子が描かれている。
- ・ほかにもさまざまな漁の様子や縁起のよい図柄が描かれた。魚、動植物、文字も見える。

「万祝（突きん棒）」  
館山市立博物館所蔵資料

房総の万祝の特徴として、裾模様には捕鯨や突きん棒漁（海の表層を泳いでいる大型の魚を「もり」で突いて捕る漁法）など漁の様子や、とれた魚の種類（イワシ、カツオ、マグロ、ブリ、カジキなど）が描かれていることが挙げられます。万祝は、当時の漁の様子や風俗、そして何より海に生きる人々の喜びや願いが見てとれる貴重な資料、とも言えるのです。



万祝は、完成品を買うのではなく、見本帳をもとに図柄を選び、注文していました。1回に20～100反の注文があったそうです。同じ絵柄を大量に染めるため、型紙に絵柄を彫り、生地をかめに直接つける「浸し染め」や刷毛で染める「引き染め」を使い分けて、彩色されました。



このあと、万祝の製作過程について、記録映画を視聴しました。

## 万祝は、いま…

かつては、漁の終わったときやお宮参りなどに、海の男たちの「晴れ着」であった万祝を羽織った人の姿を見ることができたといえます。けれども昭和の後半になると、万祝を贈る風習もすたれ始め、大漁の祝いには、万祝の代わりに手拭、スーツ、ジャンパーなどが配られるようになりました。また、古くなった万祝は作業着や防寒着、布団やふるしき等に作りかえられていきました。今では大漁旗やテーブルクロスに万祝の製作技術が生かされています。

# 千葉の漁業について

「万祝」の本来の意味は、大漁があった時の祝宴です。いうまでもなく、万祝のある地域では漁業が盛んに行われてきたのであり、万祝の成立は漁業の発展あってこそといっ  
てよいでしょう。



千葉県は、県土の三方を海に囲まれ、約529キロメートルに及ぶ海岸線は変化に富んでいます。しかも沖合の太平洋は、黒潮（暖流）・親潮（寒流）が流れており、やって来る魚群や沿岸に生息する生物が、バラエティに富んでいます。このような恵まれた自然環境から、沿岸や沖合でのさまざまな形態の漁業が発達してきました。



潜水漁から始まり、棒ややり、もりを投げて捕まえる突きん棒漁（万祝にも描かれています）、つぼやかごにタコや貝類を誘い込んで捕まえる漁、網や船を使って行う大規模な漁法の進展について説明を受けました。それぞれ、実にさまざまな漁法があるのに参加者の皆さんは感心していました。



捕鯨に使用した道具を見学しました。房総はかつて沿岸捕鯨が盛んでした。特に館山市の北方のきよなん鋸南町では、だいごくみ醍醐組という大規模な捕鯨組織があり、江戸時代に大きく発展しました。

もりにもたくさんの種類があり、クジラの種類や大きさに合わせて、確実に捕らえる工夫が施されているのに驚かされました。



博物館を出て、関澤明清の顕彰碑に向かいました。関澤は、明治維新後、外国の漁業の様子を見て、日本の漁業振興の必要性を痛感します。アメリカ式捕鯨法やサケ・マスの人工ふ化、缶詰製造法を日本に導入し、水産伝習所を開いて後進の指導にも当たるなど、近代漁業の先駆者と言われています。すぐ近くには遠洋漁業で活躍したものの、朝鮮海域で遭難した順天丸の殉難者を悼み建てられた碑もあります。近代漁業の発展が、多くの人々

の努力や犠牲の上に成り立っていたことがわかります。

現在も、千葉県は海で行う漁業・養殖業生産量で全国第6位（平成20年）の水産県であり、首都圏へ新鮮な水産物を安定的に供給し続けています。

最後は、「普門院船形山大福寺」を訪ねました。朱塗りの観音堂にある本尊十一面観世音菩薩は、奈良時代の高僧として知られる行基<sup>ぎょうき</sup>が717（養老元）年に地元漁民の海上安全と豊漁を祈願して山の岩肌に刻んだもの、と言われていています。「崖の観音」として親しまれる本尊は、摩崖仏としては県下最古、1970（昭和45）年に館山市の有形文化財に指定されています。観音堂の欄間には、あの名匠左甚五郎<sup>ひだりじんごろう</sup>の作といわれる子、丑、寅、戌の彫刻が施されています。



観音堂から見下ろす館山湾（鏡ヶ浦）の絶景に、皆さん歓声をあげていました。海からは、観音堂が崖の途中に浮かぶように見えるのでしょうか。

大福寺を出ると真っ青な海ともお別れです。そしてバスは無事に千葉駅前に到着しました。大変暑い日でしたが、皆さん疲れも見せず、解散となりました。千葉の魅力、よさについて学んでいただけたものと思います。円滑な運営・進行にご協力ありがとうございました。お疲れさまでした。

## 館山市立博物館

問い合わせ先；0470-23-5212

本館

・「館山市の歴史と民俗」をテーマに、安房の歴史を紹介しています。

館山城（八犬伝博物館）

・「南総里見八犬伝」に関する資料が展示されています。

今回訪問した分館は、平成23年の開館に向けて準備をしているため、現在休館中です。

問い合わせ先；0470-24-2402

## 参加者の声

丁寧にご案内いただき勉強になり楽しむことができました。

学芸員の方の説明もあり実りのあるコースでした。

学芸員の方のお話・ご案内を頂けてよかった。

とても有意義に過ごさせていただきました。

万祝の展示がよかった。

万祝の展示や説明が興味深かった。自由散策やフリーの時間がもっと多くてもよかった。

初めての参加でしたが、大変楽しくまた参加したい。

参加できうれしく思います。万祝の丁寧な説明をしていただきありがとうございました。

職員の方々ありがとうございました。

小学生のころ社会科見学で万祝染めを経験していたので、よくわかりました。写真撮影OKしていただいて助かりました。

子どもは何か体験できることがあったらいいと思います。(漁業体験) ウミホタル見たかったです。

### 【小学生の意見】

展示物が高く、少し見にくかった。

おもしろかった。

万祝の作り方などいろんなことがわかってよかった。